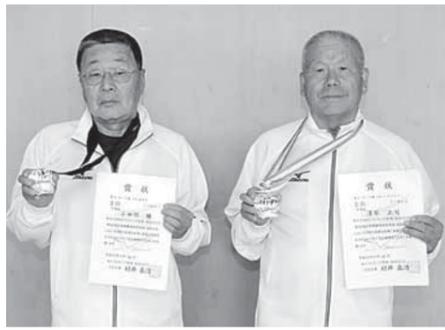




1\_熱戦が繰り広げられた「囲碁交流大会」。一手一手が真剣勝負 2\_団体の部・準優勝の北海道 3\_団体の部・優勝の京都市 4\_団体の部・第3位の札幌市 5\_囲碁交流大会最高齢の沼山助内さん(97歳・青森県代表) 6\_開始式で選手宣誓を行った宮城県代表の阿部績さん(柴田町) 7\_仙台市出身の一流プロと学生本因坊戦東北大会チャンピオンの梅田真也さんの公開対局。栄光復プロ(写真中央)が大盤を用いて解説 8\_宮城県代表として出場した小川信夫さん(緑が丘) 9\_同じく宮城県代表として出場した山崎實さん(大川町) 10\_東日本大震災発生当時の様子や復興の状況を写真で紹介 11\_市内保育園児による「白石うーめん体操」で選手たちを歓迎 12\_プロの指導による囲碁教室



水泳交流大会で  
清原正司さん・小田部勝さんが銀メダルを獲得

角田市屋内温水プールで行われた「水泳交流大会」では、白石の選手が大活躍！ 清原正司さん(不澄ヶ池・写真右)が男子25mバタフライ75歳～79歳の部、小田部勝さん(松ヶ丘)が男子25m背泳ぎ70歳～74歳の部に出場し、それぞれ銀メダルを獲得した。清原さんは3回目の出場で念願の初メダル、小田部さんは初出場でメダル獲得となった。

感謝 × 熱戦 × 交流 × 笑顔

ねんりんピック宮城・仙台2012  
白石市が会場となった「囲碁交流大会」に全国から約180人の選手が集結  
震災での支援に感謝し、「囲碁」と「交流」を楽しんだ2日間

「健康で長生きはすべての人の願い。」「意欲」という言葉以上に、皆さんの心意気を感じた大会となった。

「おもてなしの心」で迎える準備を進めてきた。選手は全員60歳以上。「若い」と言える年齢では決してないかもしれないが、囲碁交流大会の最高齢沼山助内さん(97歳・青森県代表)は、上達するために日々勉強に励んでいるという。そして、大会を通して多くの選手から「この歳になって、全国の方々と自分が好きな競技を通してふれあえることができるのは、この上ない幸せ」という声を聞くことができた。

東日本大震災以降、初めてとなる全国規模の大会実施に、「震災直後からいただいた多くの支援に感謝を込めて交流したい」という気持ちがあり、実行委員などの関係者にはあった。大会を陰で支えた実行委員の皆さんは、本大会の開催に向けて昨年8月、老人クラブやシルバー人材センター、観光団体などの関係機関が集まり実行委員会を設立。昨年9月のリハーサル大会をはじめ、全国からの参加者を「おもてなしの心」で迎える準備を進めてきた。

10月13日～16日の4日間、「第25回全国健康福祉祭(ねんりんピック宮城・仙台2012)」が県内13市町で開催された。卓球やテニスなどのスポーツ交流大会14種目、将棋や健康マージャンなどの文化交流大会4種目が行われ、白石市では14日・15日の2日間、「囲碁交流大会」がホワイトキューブで開催。会場では、全国の予選を勝ち抜いてきた約180人の選手が、ふるさとの名誉をかけて団体戦と個人戦で熱戦を繰り広げた。

また、当日は、囲碁を身近に感じてもらうとさまざまなイベントが行われた。プロ棋士による指導碁や囲碁教室、プロとアマチュアの公開対局を特別ゲストの宋光復プロ(九段)が大盤を使って解説するなど、囲碁を通じたイベントで、子どもも大人も世代を超えて交流を楽しんだ。さらに、白石工業高校吹奏楽部の演奏で選手を迎えたのははじめ、深谷小学校の児童によるかさまつ太鼓や白石高校マ